

武蔵野市市民活動推進委員会

第7回委員会 議事要旨

日時：平成29年1月30日（月）午後2時から午後4時

場所：武蔵野市役所812会議室

出席委員：竹内副委員長 市川委員 高橋委員 千種委員

寺島委員 坂本委員 佐々木委員

1 開会

－事務局より手持ち資料確認

2 議事

(1) 中間のまとめに対するパブリックコメントについて

(2) 「IV. 改定計画推進に向けた新たな方向性」について

－事務局より資料1及び委員長提出資料（委員長欠席のため。）を基に説明を行う。

(質疑・意見交換)

■副委員長

- ・パブリックコメントの意見について、議事（2）と切り離して議論するより、パブリックコメントをうけて文章を変更した「IV. 改定計画に向けた新たな方向性」と、変更したのに対してさらに委員長から出してもらった資料の意見について議論の方がよいと思うので、議事の（1）と（2）を合わせて行い、それ以外の部分については、後で検討するという方法で議論を行いたいと思う。
- ・事務局からの説明部分を見ていくと、パブリックコメントの7番はいかがか。

■事務局

- ・パブリックコメント7番の意見については、中間のまとめでは、1－1「地域活動への参加につなげる循環づくり」、1－2「魅力発信により参加につなげる循環づくり」という形を出していたが、「悩み、課題のほうが先に書いてあり、文章も多いのは悲しい」という意見をいただいたので、1－1「魅力発信により参加につなげる仕掛け」、1－2「継

続的な市民活動を促す循環の仕組み」という形に変更をしている。

■副委員長

- ・パブリックコメント11について、1－2の対象が、既に何らかの形で活動している人たちしか想定されていないという意見に対してはどうか。

■事務局

- ・実際の考えとしては、学生や企業人もターゲットにしているが、「市内に在住しながらも広域的な活動をしている学生や企業人、その他地域で市民活動を行っている人たちにも」という表現が、市民活動を行っている人たちにしか魅力発信をしないのではないかとというふうに伝わってしまっており、資料2では、「通勤、通学、子育て、介護などを行っている人々」という形に変更している。

■委員

- ・委員長の意見では、「地域活動は『面白い』という表現もある」とあるが、楽しいという感覚ではなくて、地域活動の面白さを表現したほうがいいということではないか。
- ・「市民活動を楽しむという視点にたち」という、表現に違和感がある。「楽しむ」という表現は、ある程度市民活動をやられている人たちが実際に感じていくものだと思う。参加につなげる仕掛けということであれば、「面白そう」であるとか「面白み」といった方が、よいと思う。

■副委員長

- ・参加につなげるということなので、市外で様々な活動をしている人に地域に目を向けてもらうということは、一つあるが、全く活動していない人を引き寄せるといふ部分は、抜けているかもしれない。そして、面白い面があるということを知ってもらわないと、やろうという気にならないという話だと思う。現状の文章では、すでに市民活動を行っている人に地域を見てもらうという面が、前面に出てしまっている。

■委員

- ・1－1の2行目に「市民活動を楽しむという視点にたち」という言葉が出てくるので、

5行目の「魅力・活動の楽しさを発信し」の「楽しさ」は「面白さ」でいいのかもしれない。ただし、コミセンでは、自分たちも楽しんで活動していれば、その楽しさを見て人が集まってくるという考え方ではある。

■委員

- ・前段の「楽しむ」は、発信する側からの視点に立ちということでの位置づけがあると思う。後段は、楽しむだけではなく、幅広い面白さが伝播していくということで、切り分けをしたほうがよいと思う。

■副委員長

- ・続いて、委員長の意見にあった「地域デビュー」という表現を入れるかどうかという点についてだが、何かあるか。

■委員

- ・「地域デビュー」というのは、若い人に限って言っているのか。定年を迎えた人も「地域デビュー」という表現を使うと思う。

■委員

- ・市民活動の参加を促すということなので、わかりやすく、最近の言葉を使ってということで、「地域デビュー」という表現を用いているのはよいと思う。

■副委員長

- ・「地域デビュー」については、後でもう一度議論するとして、次にいきたい。
- ・パブリックコメントの12番では、1-2は「循環づくり」と書いてあるが、必ずしも循環づくりになっていないという意見であり、その部分を変更しているのか。

■事務局

- ・「循環づくり」から「参加につなげる仕掛け」という表現に変更している。

■副委員長

- ・ 1-1「参加につなげる仕掛け」が、入り口をつくるという話で、1-2が循環について書いてあり、2つ合わせると、入ってきてもらい、回っていくという、流れができるのでよいと思う。
- ・ パブリックコメント15番については、2-3「コーディネーターに求められる力量」の「力量」は、「能力」ではないかとの意見であったが、「能力」という表現だと生まれながらに持っているもののようにも捉えられてしまうので「力量」という表現にしている。
- ・ パブリックコメント16番については、「やる気にさせる能力」も必要ではないかという意見であるが、大事な能力であり、調整力の中に入れて考えている。

■委員

- ・ 調整力の説明文に加筆している。合わせて、委員長からの意見で、「育てる」「育成力」について加えるべきかどうかを検討すべきではないかというものがあつた。こちらについても、調整力の中に加えていくというふうには考えているが、全てを入れてしまうと、多くなってしまい、コーディネート機能のハードルを上げることになってしまう部分もあると思う。

■副委員長

- ・ パブリックコメント26や32の意見で、「コーディネーター」と「コーディネート機能」の使い分けが分かりづらいという点についてはどうか。

■事務局

- ・ 全体として、「コーディネーター」という表現を極力「コーディネート機能」に置きかえて記載をしている。全体の構成について説明すると、資料2-1「コーディネート機能の必要性」については、大きな変更はないが、「なお、本計画におけるコーディネーターとは、コーディネート機能を担う人や組織を示しています。」という形で、明確化している。
- ・ 2-2の「コーディネート機能が必要となる場」については、「さまざまな場でコーディネート機能が必要になるということで、①コミュニティにおけるコーディネート機能が

必要である、②分野ごとのコーディネート機能が必要である、③地域や分野をつなぐコーディネート機能が必要である」という文章に変更している。

- ・ 2-3 「コーディネート機能を担う人材に求められる力量」については、それぞれの項目に、関係性を持たせて説明をしており、それに伴って図表も変更している。合わせて、「そのために、コーディネート機能を担う人材の発掘や、コーディネート機能を高めるための養成講座などが必要です」と「ただし、必ずしも特定の人や組織が全ての力量を備えているということではなく、複数の人や組織が協力して全体としてコーディネート機能を発揮していくことが必要です。」という文章を書き加えている。
- ・ 2-4 「公的な機関におけるコーディネート機能の必要性について」を最後に記載しているという流れになっている。

■副委員長

- ・ 委員長の意見で、2-1 「コーディネート機能の必要性」で、「コーディネート機能を担う人・集団・組織を」というふうに入れたどうかというものがあつた。集団という表現でも言い過ぎかもしれないという感じがしており、「人々のゆるやかなつながり」のようなものだと思う。

■委員

- ・ 条件の中に、「ゆるやかな」という表現を組み込んでいくのか、あるいは、幅を持たせるように「人や組織など」といったような表現にするのか。

■副委員長

- ・ 「人、集団、組織など」という表現でよいと思う。「など」を入れることによって、輪郭がはっきりしない集団も入ると考えつことができる。

■委員

- ・ 「コーディネーター」から「コーディネート機能」になったことで随分楽になったと思う。「コーディネーター」というと人をイメージしてしまい、その人の力量と言われてしまうと、どれだけの人がいるんだといった感じだったが、随分楽になった。

■副委員長

- ・パブリックコメント31についてはどうか。

■委員

- ・パブリックコメントでは、もっといい例はないかということだが、きっかけづくりとして子育てはやはり非常に大きい部分だと思う。そういった意味では、今回の形のように、それよりいい例を出していくというよりは、事例を複数出すような形が適切ではないかということでこのような形となっている。

■副委員長

- ・パブリックコメント37、38については、具体的に何をやるのかということだが、具体的に講座をやるといった話ではなく、こういった方針のもとにいろいろやっ払いこうということによいと思う。

■委員

- ・実施計画の部分については、具体化できるものは原則入れているが、そういった部分については、関連する各分野とどのようにつないでいくかということのパブリックコメントでは、回答している。

■委員

- ・今年度、市、武蔵野プレイス、ボランティアセンター武蔵野の3者で、事業を持ち寄って、一体的に広報を行った事業があり、具体的な事例としてあげられると思う。

■副委員長

- ・あらためて委員長の意見にあった「地域デビュー」について、定年退職後に地域デビューするという事は、よくある話なので、うまく入れられるようであれば、入れたいと思う。

■委員

- ・通常、定年退職後の参加ということで考えると、勤めている会社のCRSの一環で、企

業ボランティアなど経験を得た人が定年後、地域でやってみようという流れがあると地域に入りやすいと思う。

■委員

- ・ 1-1 「身近な地域の魅力や市民活動に取り組んでいる人たちの魅力、活動の楽しさを発信し」から「つながっていくのです」のところまでが、魅力、活動、楽しさの繰り返しになっているので、そこに「自分のスキルを地域で活かす」や「地域デビュー」という言葉を入れながら、具体的な要素を含めて「市民活動の参加につながっていくのです」と締めると、文章に幅が出ると思う。

■副委員長

- ・「通勤、通学、子育て、介護している人が地域の活動から疎遠になりがちです」となっているが、この人たちが持っている、様々なスキルを地域に還元するという流れがあるとよいと思う。

■委員

- ・今、「地域デビュー」するような方は、自主的に取り組まれる方が多いと思う。今までは、地域デビューをしてもらうというような言い方が多かったが、今はもう少し自主的に、お父さんたちがいろいろなものに参加したり、子育ても楽しんだりといったことや、高齢の方が自分のスキルを生かして何か社会貢献したいという、自主的な活動が増えてきているように思う。

■副委員長

- ・今の文章だと、実態に合っていないかもしれないし、これを読んだ人も上から目線だと感じてしまうかもしれない。いま議論したような視点を入れて書き直すとよいと思う。

■委員

- ・ 1-2 「継続的な市民活動を促す循環の仕組み」については、「子育てを通して」とか、「子育てをする中で」という表現の方がよいと思う。また、「子育て中の人には触れる機会ができ、家族の介護を担っている人には触れる機会ができ」という言い方に違和感がある。

■委員

- ・「できる」ではなく、「ある」という感じではないか。

■委員

- ・その場を通して、触れていくことで、自分が入るきっかけになったり、楽しさを覚えたりということになってくる。

■委員

- ・子育て中の人はそういった活動に触れる機会ができ、家族の介護を担っている人はそういった活動ができ、という表現だと、子育て中の人は、そういった特典があります、介護を受ける人はこういった特典があります、といったニュアンスに感じてしまう。そうではなくて、そういったことを通して、触れることがあるというぐらいのニュアンスがよいと思う。

■委員

- ・パブリックコメントの37番で、施策として具体的に何をするのかわからないという意見があったが、具体的な施策を書いたほうがよいのか。なかなか難しい部分もあると思う。

■副委員長

- ・既に行っている事業について、現在このような事業を実施しているということを、質問をした方に伝えると、イメージしてもらいやすくなると思う。
- ・多少時間はあると思うので、また改めて読んでみて気づいたことなどがあったら事務局に連絡してもらおうということをお願いしたい。

(3) 改定計画(案)の構成について

—事務局より資料3を基に説明を行う。

(質疑・意見交換)

■副委員長

- ・はじめに、9ページ目の「計画のミッション」について、どうするのがよいかという点

について話をしていただきたい。

■委員

- ・「計画のミッション」の部分については、当初計画の中では、計画の位置づけという形で記載をされていたものだが、10年間のスパンの基本計画全体のためのミッションということで記載しているので、そのままの形で出していくのがよいのかを検討する必要がある。

■副委員長

- ・ミッションと目標は、なにが違うのか。

■委員

- ・目標は、社会全体に対する目標といった形で当初計画に記載されているが、ミッションは、「武蔵野市の施策の方向性等、取り組みの具体策を提示することをミッションとする」という表現になっており、この計画を推進するためのミッションという位置づけになっている。

■副委員長

- ・当初計画では、ミッションとして3つの項目を掲げていて、変える必要がなければ、引き続き踏襲するということによいと思う。変える必要があるのかということを考える必要がある。

■委員

- ・現在進行形で進行はしているが、方向性は変わってはいないと思う。

■副委員長

- ・改定計画では新たにミッションを設定しているということではなく、基本計画のミッションを踏襲しているということによいのか。

■委員

- ・改定計画のためのミッションを制定しているということではなく、もともと基本計画で10年間を見据えたミッションとして整備をしたものを、改定計画でも引き続き踏襲していくという形である。

■副委員長

- ・改定計画のミッションというと、基本計画のミッションを遂行するために改定が必要な部分は改定するというのが改定計画のミッションであると思う。そういった意味では、少し整理が必要だと思う。

■委員

- ・全体的な構成としては、資料3の目次の部分に構成の説明ということで「中間P1」や、「基本P10」と記載しているが、「中間」というのは、「中間のまとめ」で新たに作成したもので、「基本」というのは、基本計画の表現を踏襲しているという形になっている。

■副委員長

- ・改定計画を見た方が、どこが当初の計画から変わったのかがわかるような感じにはなるのか。

■委員

- ・新しいものを全体の中に溶け込ませていくという形で考えている。場合によっては、基本計画のときには「本計画の名称と構成について」といった項目があり、全体構成について示しているが、それと似たような形で「計画の構成について」という形で、構成について書くことは可能だと思う。

■副委員長

- ・全部読み比べないとわからないというのでは、わかりづらいので、改定のポイントを、何かの形で入れておいたほうがいいと思う。

■委員

- ・資料3については、全体像を改めて各委員の皆様に確認していただくということで出しているのですが、後ほど確認していただきたい。

■副委員長

- ・議論した点を文章化して、委員長に検討してもらおうとともに、場合によっては、皆さんに意見をいただくようになると思う。

3 事務連絡

- －事務局より事務連絡

4 閉会

以上